

# 令和7年度第2回 油津歴史文化遺産活用事業推進会議

令和7年12月15日

未来創生課作成

## 会議録（要点記録）

開 催 場 所	日南市役所 本館2階 会議室7		
会 議 日 時	令和7年11月25日（火）	時 間	14:00～15:30
会 議 出 席 者	<p>【委員】</p> <p>益田委員、細田委員、落合委員、山口委員、楠委員、藤本委員、長友委員、宮口委員、鬼束委員</p> <p>【油津の歴史文化遺産を活用したまちづくりコーディネーター】</p> <p>株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所</p> <p>（コーディネーター）大野博堂氏（オンライン参加）</p> <p>【事務局】</p> <p>高橋市長</p> <p>（未来創生課）古澤課長、吉元課長補佐、山倉副主幹</p> <p>（観光・クルーズ課）谷口課長、遠藤副主任主事</p> <p>（生涯学習課）重永課長、平原係長、佐藤副主幹</p>		
会 議 の 次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>（1）【報告】各事業の進捗状況について</p> <p>① 油津文化遺産振興事業／未来創生課</p> <p>② 歴史資料館（ガイダンスセンター）整備事業／未来創生課</p> <p>③ 河野宗泰家整備事業／未来創生課</p> <p>④ 既存施設利活用事業／未来創生課</p> <p>⑤ 市民活動支援事業／未来創生課</p> <p>⑥ 水辺利活用事業／観光・クルーズ課</p> <p>⑦ 花峯橋整備事業／生涯学習課</p> <p>（2）【協議】事業計画見直し及び今後の展開について</p> <p>4 そ の 他</p> <p>5 閉 会</p>		
【 内 容 】			
<p>1 開会（14時00分）</p> <p>・本会議の会議録（要点記録）の市のホームページへの掲載について説明。</p> <p style="text-align: right;">＜次ページへ続く（1／4）＞</p>			

## 2 市長あいさつ

### 3 議事（議長（委員長 益田委員）進行）

（１）各種事業の進捗状況について ※①～⑦まで一括して事務局より説明。その後質疑応答。

- ① 油津文化遺産振興事業／未来創生課
- ② 歴史資料館（ガイダンスセンター）整備事業／未来創生課
- ③ 河野宗泰家整備事業／未来創生課
- ④ 既存施設利活用事業／未来創生課
- ⑤ 市民活動支援事業／未来創生課
- ⑥ 水辺利活用事業／観光・クルーズ課
- ⑦ 花峯橋整備事業／生涯学習課

#### 【主な意見・質疑等】

（委員）事業費の高騰の説明を受けたが、当初から想定できなかったのか。

⇒（事務局）当然、計画策定段階で物価高騰等は見込まれていたと思うが、コーディネーターから報告を受けた資料（別添資料）にもあるとおり、近年の物価高騰の上昇率はとても高く、想定を上回った。

加えて、地震の影響もあり、歴史資料館の整備については、地震による外壁の全面張替えが必要となったことで、9,000万円増額となったことも、事業費増額の要因である。

（委員）これだけ膨れ上がると、削る必要があると思われる。すべての事業が何らかの形でこの地域で出来たらという思いがあり、完全になくしてしまうのは、事業として問題ではないかと考える。少しの事業費をかけてでも、将来に繋がる取組をして欲しい。

（委員）世の中の物価高騰の影響はとても大きい。最初に想定した金額で収めようとする場合、何かの事業を削る、若しくは、別の財源で補うということになると思う。民間であれば、値上げをするなど、運用コストの見直しという手段もある。

特に河野宗泰家整備事業が大幅に増額となっている。改修するに当たって、人命を保証するための費用であれば、そこを削るわけにはいかないと考える。

（委員）今回事業見直しで、河野宗泰家整備事業を中止としたとき、大きな地震が来て建物が倒壊したとなると、このまちづくり計画事業そのものに大きな影響を与える可能性もある。

地域の思いを考えると大変空しいことだが、これだけの事業費を投じて改修するのではなく、取り壊すしかないのでは、といった意見も地域から上がっている。

<次ページへ続く（2／4）>

(2) 事業計画見直し及び今後の展開について ※事務局より説明後、質疑応答。

【説明した事業内容の変更点（案）】

- ・ 歴史資料館の整備、花峯橋の復原を優先的に実施するため、河野宗泰家整備事業、既存施設活用事業の令和8年度以降の事業費を一旦0円とする。
- ・ 花峯橋整備事業の事業費が増額しないよう、関係機関と調整を図る。

【協議結果】

- ・ 変更点（案）について、全員一致で了承。

【主な意見・質疑等】

(委員) 油津の歴史文化遺産の活用とiiつつ、既存施設利活用事業を実施しないということは、油津の歴史継承というのはもう全く、手をつけないということになってしまうのか。

⇒ (事務局) 現状を踏まえ、今後の事業費を見込んだときに、文化財として登録された建物の活用をまちづくり計画事業の中で実施することは難しいため、一旦、まちづくり計画から切り離したいと考えている。

しかしながら、歴史や文化の継承については、歴史資料館の展示でしっかりと伝え、守っていきたい。

(委員) 多額の事業費を投じなくても、例えば、油津の文化財の現状調査を行い、将来使えるのかどうなのか、を調べるだけでも行ってほしい。そうすることで、まちづくり計画事業が終わった後の、次の取組に繋げることができると思う。

⇒ (事務局) 油津地区の文化財は、ほとんどが個人所有となっている。現況の実態把握に努めるため、個人のご意向を踏まえつつ、今後検討してまいります。

(委員) 歴史資料館が整備された後、いろいろなテーマに沿った企画展を行い、油津の歴史・文化を伝える取組をするとよいと考える。例えば、現況調査の中で新しい発見があれば、それを展示することも考えられる。

⇒ (事務局) 歴史資料館の整備については、整備したら終わり、ではなく、展示内容について、年々バージョンアップが図れるような仕組みにできればと考えている。

(委員) 既存施設利活用事業については、国も様々な支援を行っているため、まちなかウォークブル推進事業以外の補助制度の活用の検討や、民間事業者への働きかけを積極的に行ってほしい。

(コーディネーター) 河野宗泰家整備事業や歴史資料館整備事業については、事務局からも説明があったとおり諸々の要因があり、事業費が増額する見込みとなったが、物価高騰だけならまだしも、地震による影響も加わったことが、大きな要因であり、予測が困難であったことは理解いただきたい。

一方、歴史資料館の整備が、改修であったことが幸いしており、もしも新築であれば、さらに事業費は増額していたと推察される。

今回お示した事業内容の変更案は、地域の皆様の思いも十分に理解したうえで、事業の優先順位を考慮し、事務局と協議を重ねた上でのご提案である。

(委員) 油津まちづくり計画事業を進めるうえで、堀川の水質が、今後クルーズアップされるのではないかと。堀川運河の水質改善のため、県に対して、浚渫等の対策を講じてもらうよう、働きかけをしてもらいたい。

⇒ (事務局) 県としては、現時点において浚渫等の計画はないとのこと。現状の水質を踏まえた体験メニューを創出することとしているが、今後、具体的な周遊プラン等が固まってきたら、改めて、県と協議を行いたい。

(委員) 油津まちづくり計画事業を成功させるためにも、県に対して、水質改善に取り組んでいただけるよう、熱い思いを伝えていただきたい。

清掃が実現すれば、油津地域住民も協力してくれると思う。

## 4 その他

### 【主な意見・質疑等】

(委員) チョロ船について、現在、1号艇と2号艇は廃棄されており、3号艇と4号艇の2艇で運行している。しかしながら、3号艇は老朽化のため、近いうちに廃棄されると聞いている。

油津の重要な文化遺産であるため、新船の製造について、検討いただきたい。

⇒ (事務局) 油津まちづくり計画事業の中で、チョロ船の活用は組み込まれているため、チョロ船の建造については、前向きに検討したい。

## 5 閉会（15時30分）